

大分県立
芸術文化
短期大学

OITA
PREFECTURAL
COLLEGE OF
ARTS
AND CULTURE

大学広報誌 エピストゥラ

Epistula

spring
2014



特集

美術・音楽・国際・情コミュ

全4学科が行った1年間の活動をお知らせします!

【表紙モデル】美術科デザイン専攻ビジュアルデザインコース2年:宮本珠美さん、盛満まいかさん

vol. 34

美術科

フンドーキンマンシヨンにて 作品展を開催しました

アーティストたちの新たな活動拠点の場として
注目されているフンドーキンマンシヨンにて、
学生3名が展示を行いました。

「森山楓 個展」 専攻科1年 森山楓
マンシヨンでは珍しいメソネット式の部屋を利用し、1階に水彩やクレヨン画、2階に段ボール画を展示。期間中は、壁に絵を描く公開制作も行いました。

私はこれまで作品を人に見せることを避け、自分の殻に閉じこもって制作をしていたのですが、今回の作品展に來場して下さったたくさんの方々と話をする中で、人に見せることは想像していたほど怖くないと感じました。開かれた場所で展示をすることで、何を伝えたいのか、誰に見て欲しいのかが明確になった気がします。今回の展示を機に、制作に対する姿勢も大きく変わり、次の段階へ進む一歩に繋がりました。



色彩検定試験に合格しました

2013年11月10日、本学にて色彩検定試験を実施しました。美術科の選択授業である「色彩計画」の受講者から希望する学生で受験し、二級に3名、三級に4名が合格しました。色彩検定とは、文部科学省後援の技能検定で「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、誰もが「理論に裏付けられた色彩の実践的活用能力」を身につけることを目的としたものです。合格者には、認定書と認定カードが与えられます。(2014年は実施未定)



アート・デザイン系情報誌 「hum hum」、専攻科で創刊!



専攻科造形専攻ビジュアルデザインコース西口ゼミの学生で、大分市のアート・デザインに関するフリーペーパー「hum hum(フムフム)」を発行しています。実践をふまえた授業として、編集から取材、撮影、執筆、デザイン、データ入稿、配布と、制作行程を体験しながらエディトリアルデザインを学んでいます。2015年オープン of 県立美術館、市内街歩きガイドの特集をはじめ、アートやデザインで活躍している大分の人々をクローズアップするコーナー、イベントページなど、芸術を身近に感じてもらうための情報を掲載。また、中央町商店街の方から店舗を紹介した街歩きマップ制作の依頼があり、こちらも無事完成しました。大分に今までなかった、街の人目線・の冊子ができて嬉しいと学内外から好評をいただいています。

「オペラトマト」PRROとメンバーを デザインしました!

本学音楽科の卒業生がオリジナルブランドとして栽培を始めた「オペラトマト」は、クラシック音楽をたつぷりと聴かせて育てた美味しいトマトです。そのトマトの魅力をPRするロゴマークとラベルのデザインを専攻科造形専攻2年の田井啓介さんが制作しました。在学生とOBのコラボによる美味しいトマトをぜひご賞味ください。



「視界・worlds apart」 美術科2年 原田知宏

「見る人にそのまま解釈をゆだねたい」という思いから、写真・を媒体に選び、フンドーキンマンシヨンの通路にて展示を実施。新しい発見を求め、普段美術と接点を持たない国際文化学科2年 出口英さんとタッグを組んで展示に挑みました。



「106」専攻科1年 田中慶理

自身の制作テーマである「一人が残す痕跡」をモチーフに制作したインスタレーション作品を展示。メソネットタイプの仕組みを利用し、1階にこれまで制作した平面作品やポートフォリオを展示して自身の紹介を行い、2階に新作のインスタレーション作品の展示や移住・交流する場を設けました。会期中には、中学生とのセッションイベントなども行いました。

美大生やデザイナーの展示がマンシヨン内で複数あったこともあり、県内外から多くの方々が訪れ、意見などを聞くことができた。サイトスペシフィックな作品を作れたかという点では山積みですが、学生のうちに場所を意識してその場で制作できたというのは、貴重な体験だったと思います。



第52回美術科「卒業・修了制作展」を 開催しました

毎年恒例となっている「卒業・修了制作展」は、本学を卒業・修了する学生たちがこれまでに学んできた学習の成果と創作研究の集大成となる作品の数々を、多くの方々に発表することを目的とした作品展です。今年度は、短大美術専攻27名、デザイン専攻56名、専攻科造形専攻25名の計108名の学生が出展。それぞれのコースごと

にブースを分け、油画、日本画、ミクストメディア、彫刻、ビジュアルデザイン、テキスタイルデザイン、プロダクトデザイン分野の約200作品を集結した見応えのあるものとなりました。近年は、平面作品以外にもアイデア溢れるパッケージデザインや商品企画モノ、デザイン性と機能性を兼ね備えた家具類などの作品も多くなっており、これまでに以上に多くの関係者や専門家から高い評価をいただきました。



音楽科

公開研究発表会を行いました

7月17日と18日、公開研究発表会を行いました。公開研究発表会は、専攻科音楽専攻の力にキリムに設定されている科目です。学位取得希望者は、学位授与機構へ提出するビデオ撮りも兼ねて行われます。

【出演】
木山恵理 (Pt.) / 島津幸奈 (Pt.) / 首藤里佳 (Pt.) / 平山真実 (Pt.) / 越智秀之 (Perc.) / 池田香 (Sa.) / 井上貴裕 (Ob.) / 黒木華鈴 (Cl.) / 小林彩 (Sop.) / 鈴木里佳 (Sop.) / 南菜穂 (Pt.) / 安田奈々 (Pt.) / 藤田真砂代 (Pt.) / 塚本清 (Tr.) / 中山ほか (Tr.) / 藤澤紗朱 (Cl.) / 藤田紗弥 (Pt.) / 森山果歩 (Tr.) / 上田明日香 (Sop.) / 河野真美香 (Sop.) / 横口優紀 (Sop.)

芸短オープンカレッジ開講

県民のみなさまに向けた公開講座「芸短オープンカレッジ」。音楽科では、音楽個人グループ・ブレイクをはじめ、西洋音楽史入門、音楽理論、ピアノ講座など流の講師たちによる講座を開講しました。

オープンキャンパスを開催しました

7月14日と9月15日、本学に入学を希望する生徒さんを対象としたオープンキャンパスを開催しました。学科紹介の際に行なったミニコンサートでは、学生によるピアノ演奏、器楽アンサンブル、オペラ・ハイライトなどを披露、迫力ある演奏と華やかな舞台に「こんな素敵なステージが、踏めるようになるんだ！」と、みなさん感動の眼差しを注いでいました。



新人演奏会出演が決定しました

大学推薦を受けた学生たちが、次の新人演奏会に出演が決まりました。「読売新聞」岩本菜穂 (Sop.)、清水絵里 (Pt.)、アルグリーチ音楽祭「首藤里佳 (Pt.)、中山ほか (Tr.)」日本調律師協会九州支部「南菜穂 (Pt.)」

多彩なコンサートを開催

音楽科では「1回の舞台経験は100回の練習に勝る」をモットーに、数々の演奏会を開催しています。また、普段クラシックに触れる機会が少ない地方の小学校や中学校でのコンサートを行うなど、地域貢献にも力を入れています。

【主なコンサート・舞台】
若さあふれるコンサート (音) / 第49回定期演奏会 (グ) / 定期演奏会日田公演 (パトリシア日田) / 地域巡回演奏会 (白杵市立福良小学校、日田市立津江中学校) / ピアノコース演奏会 (音) / 管弦打コース演奏会 (音) / 音楽コース演奏会 (音) / オペラ「魔笛」(本学小ホール) / オペラ「ペンセルとクレタール」(音) ほか



※グ=lichiko グランシアタ、音=lichiko 音の泉ホール

著名な講師による「特別講座」を実施しています

定期的な実施している「特別講座」では、世界的に活躍する著名な音楽家をはじめ、日本を代表するNHK交響楽団の団員の方々、東京藝術大学の先生方をお招きして公開というかたちでレッスンを行っています。



第52回卒業演奏会・第30回修了演奏会を開催しました

3月22日と23日、成績優秀者による「卒業演奏会・修了演奏会」を開催しました。

【卒業演奏会】
〈音楽〉泉涼夏 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」より、岩のようにな動かずに「モーツァルト他」
岩本菜穂 歌劇「トスカ」より「歌に生き、愛に生き」・ブッチー他 / 小野育美 歌劇「ロメオとジュリエット」より「私は夢に生きたい」・グノー他 / 田尻菜月 歌劇「カプリチオ」家とモンテッキ家より「ああ、幾度か」・ベッリーニ他 / 矢野依子 歌劇「ミトラネ」より「ああ！」

【修了演奏会】
〈音楽〉上田明日香 歌劇「アドリアーナ・ルクヴール」より「私は卑しいしもべ」・チレア他 / 鈴木里佳 喜歌劇「こもり」より「田舎娘を演じるなら」・J. シュトラウス他
〈ピアノ〉木山恵理 映像第1集「水の反映」・ラモを讀えて、運動」・ドビュッシー / 首藤里佳 ピアノソナタ第6番 Op. 82より

卒業作品・修了作品発表会



3月4日、作曲コースの学生による「卒業作品・修了作品発表会」を実施しました。

【出演】櫻原圭亮 冬驚の唄 / 野村和音 Sontate Eingelegter Freund / 眞田大祐 吹奏楽のための小組曲 I・序奏 II・舞曲 III・唄と踊り IV・終曲 / 秋月香林「ある絶対王政の国のおはなし」より 1. 平和な国 / シアワセな人々と、崇められた王様 / 3. 混乱に陥った王国 / 美しい人々の反乱と、想い出となった栄光



卒業研究・修了研究発表会を行いました

2月5日、音楽理論コースの卒業研究発表と専攻科の修了研究を行いました。修了研究発表は、学位審査を含んでいます。「卒業研究」井上舞唱歌、童謡の研究 / 大久保将平 ベーローヴェン研究「ピアノソナタ Op. 31」第2楽章を例に / 大嶋花織 音楽療法研究「音楽療法の歴史と実践を通して」 / 大村麻友「赤とんぼ」研究 / 坂本佑衣「ドビュッシー研究」 / 「ゴッロウ」のケイクウウォーク」を例に / 高橋美里「トラベットの研究」 / 楽器構造「マウスピース・ボア」 / 西村寛「ベローヴェン研究」 / 32番例に

Cover of Epistula vol.31

本広報誌「エピストラ」は、各学科の「頑張っている学生」が表紙を飾りました。音楽科からは、専攻科音楽専攻の井上貴裕さんと佐藤蘭一さんに登場してもらいました。お二人は、「芸短弦楽アンサンブル」のメンバーとしてさまざまな場所で演奏活動を行っています。木漏れ日が差し込む中での撮影は、爽やかな二人の笑顔が印象的でした。



国際総合学科

新学科誕生で 新たなスタート

平成25年、20年間の歴史をもつ国際文化学科は、更なる教育内容の拡充と発展を目指し、「国際総合学科」へと生まれ変わりました。国際的視野とコミュニケーション能力の養成を目指す「国際コミュニケーション」・観光業を中心に地域社会で活躍する人材を育成する「観光マネジメント」、即戦力としての企画力を身につける「現代キャリアの3コース」を設置。新学科設立と同時に、韓国・研究の朴貞蘭専任講師、観光学の宮野幸岳専任講師、経営学の植村修教授が着任しました。また、本学が交流協定を結んでいる中国・江漢大学日本語学科の常梅先生が1年間専任講師として教壇に立ちました。



海外語学実習で 大きく成長!

国際総合学科(文化学科)では、休暇を利用して多くの学生が語学実習に参加しています。今年度も「イギリス・エセックス大学」、「カリフォルニア大学デビス校」、「ニューヨーク・クライストチャーチ工科大学」、「フランス・サヴォア大学」、「韓国・高麗大学」、「中国・江漢大学」に多くの学生が短期留学をしました。現地で実際に生活し、国籍の違う仲間たちと交流することで、生きた「コミュニケーション能力」を身につけることができます。また、アメリカ実習中には、サービスマーケティングとして忙しい人々に食事や宿泊場所を提供する施設でのボランティア活動も体験できます。



アメリカの大学生と 大分観光で交流を深めました



ジュリー・ノートバー准教授のゼミ生が、ハーバード大学の学生7名と大分観光を通して、交流を深めました。1日目は、八幡社の総本宮である手塚神宮を訪れ、2日目は地獄めぐりやうみたまご、高崎山など大分のレジャースポットで観光を楽しみました。参加した学生は、「最初は緊張していましたが、2日間の観光で、生まれ育った国や話す言葉が違ってても仲良くなれたような気がします。お別れするとき、寂しさを覚えました。とても短い間でしたが、すごく楽しかったです」と感想を述べました。



「PBL型インターンシップ 公開プレゼン」で留学生が 発表を行いました

ホルトホールで開催された「PBL型インターンシップ留学生による公開プレゼン」で、中国・江漢大学から本学に留学している石美(セキ)さんと周雅晶(シウガシヨウ)さんが発表を行いました。PBL型インターンシップとは、企業から出された課題に対し、学生が研究をして解決策を提案するもので、石美さんは「中国スweetsのお店を展開する戦略」、周雅晶さんは「カフェをより良くするための改善提案」を発表しました。しっかりとリサーチした上で様々なアイデアを提案し、日本人の感覚では思いつかないようなユーモア溢れるものもありました。課題を出した企業は「これまで気づかなかった事に気づかされた」「ぜひ参考にしたい」など、留学生たちの提案に関心を寄せていました。



大分国際車いすマラソン大会に 参加しています!

国際総合学科(文化学科)では、毎年開催される「大分国際車いすマラソン大会」にボランティアスタッフとして参加しています。これは、通訳ボランティア会Caridoのお手伝いとして海外選手の大分滞在中の通訳や付き添い、大会当日の進行をサポートするものです。参加前には研修会に参加し、車いす競



技や車いすの取り扱いなどを学びます。また、この大会に合わせて本学にて交流イベントを開催、大会に参加する選手を招いて講演会を開いています。今年度は、廣道純さんをお招きし「大分から世界へ、廣道純選手の挑戦」の題目で語って頂きました。廣道さんには、本広報誌「エピストラ」vol.33の表紙にも登場していただき、インタビューもさせていただきました。

留学生&常梅先生の お別れ会を行いました



昨年の3月より中国・江漢大学から留学していた石美(セキ)さんと周雅晶(シウガシヨウ)さん、陳妹嬌(チンシヨウ)さんの3人と、中国語を担当してくださった常梅先生のお別れ会を国際交流室にて行いました。国際総合学科の教員をはじめ、3人のチューターとしてサポートしてきた木山江里さん、石井佳帆さん、井上翔平さんが参加

し、お菓子やケーキを食べながら、思い出話を語りあいました。3人は「この1年間、みなさんのおかげで楽しく過ごせました。観光地を訪れたり、いろいろなことを学ぶことができた。本当にありがとうございました。みなさん口をそろえて、楽しい1年間だった。と言ってくださいました。この言葉を受けて入学科長も「みなさん本当に熱心に勉強をしていて関心しました。また、楽しかったという言葉を聞いてとてもうれしかったです。3人を一番あたかく見守ってきた常梅先生も、勉強だけでなく、日本の習慣や文化も随分身につけて、本当に頑張ったと思います」と1年を感慨深く振り返っていました。日本での経験を活かし、中国でも頑張ってください。

卒業研究発表会を 実施しました



2月5・6日の二日間にわたり、卒業研究発表会を実施しました。卒業研究発表会は、本学を卒業する学生らがこれまで学んできた学習の成果を発表する場です。一人が10〜15分程度で、これまで自分が学んできたこと、研究してきたことについて発表しました。卒業研究発表



会には学長をはじめ、他学科の教員や1年生も聴講に参加し、発表内容に対し、積極的に質問する姿も多く見られました。

国際色あふれるイベントを実施

芸術フェスタ期間中にさまざまなイベントを実施しました。ヨーロッパ各国の歴史や文化、現在の姿を映像や音楽を交えながら楽しく学ぶ「ヨーロッパ講座」や、子ぎつねヘレンのこしたの「著者である獣医師・竹田実氏を招き、命の大切さについて考えた「動物の命を考えるシンポジウム」、東

「海のシルクロード」を軸に、長い歴史をもつ交流の道を見つめ直し、未来への活用を考えた「海のシルクロードシンポジウム」、便利さの裏側にあるタイの実態や世界の貧困について考える「国際理解ワークショップ」など、どれも国際総合学科ならではの内容となっています。



Cover of Epistula vol.33

本広報誌「エピストラ」は、各学科の「頑張っている学生」が表紙を飾りました。国際文化学科からは、「第33回大分国際車いすマラソン大会」でボランティアスタッフとして活躍した木穀守さん、河野由芽さん、出口英さんに登場してもらいました。また、特別に車いす陸上競技界のトップアスリート廣道純選手にも表紙撮影に参加してもらい、明るく和やかな雰囲気が伝わる表紙となりました。



「カウントダウン2014&Hopeful New Year」を開催しました!



12月31日から1月5日まで、大分市中心街文化ゾーンで音楽・舞台・パフォーマンスなど、まちが若者とクリエイティブに動き出す。をテーマにしたイベントを開催しました。竹アート展示やAPU留学生によるパンフダンス、篠笛奏者・狩野泰二氏の演奏、本学ダンスサークルによるダンス、大分駅南口の壁面を利用したカウントダウンプロジェクト「シマビ」など、年末年始を盛り上げました。また、ホルトホールと音の泉ホールを繋ぎ、大分県が生んだ天才作曲家瀬田太郎の音楽を披露するコンサートや、その生涯を舞台化した「創作音楽劇」で人々を魅了しました。

情報コミュニケーション学

豊肥線復旧イベントに参加しました

8月4日、九州を横断するJR豊肥本線のうち、豊後竹田〜宮地間が復旧し、その運転再開イベントに36名の学生が参加しました。豊後竹田駅に到着する列車を、色とりどりの浴衣姿でお出迎えした後、竹田のまちなかの取材を実施。情報発信を行いました。学生の部は農家民泊を行い、竹田の若者や移住計画のご夫婦との交流会を行いました。



「第3回 日韓学生短編映画制作交流」を行いました



8月初旬、「日韓学生短編映画制作交流」を大分市で行いました。これは、本学とソウル芸術大学映画学科による合同プロジェクトで、スマートフォンやデジタル一眼レフを使用して映画を制作するというものです。本学の作品タイトルは「スイートピー」。結婚を決めた女性が、5年前に亡くなった元彼に夢の中でも一度会おうという内容で、セリフは韓国語で撮影されました。この作品は、韓国で開催された「常緑樹国際短編映画祭」で特別賞を受賞しました。

「街なかにぎわいプラン」公開プレゼンで優秀賞を受賞!

大分県の商店街を魅力的にし、集客率アップを狙ったプランを募集した「街なかにぎわいプラン」公開プレゼンテーションで、TV局（U-STREAM M配信）を開局し、地域で活躍している人物やイベント紹介、映像祭を実施するといった内容を発表した「学生と商店街のコラボ放送局 大分まちなかTV」が優秀賞を受賞。大分まちなかTVの開局を実現しました。開局に先立ち、情報コミュニケーション学と酒井優菜さんによる記者会見も行われました。



赤い羽根ボールペン広報活動を行いました



共同募金会が新たな募金手法として取り組んでいる。寄付金付き商品で、ボールペンのデザインを美術科の学生が担当。情報コミュニケーション学が販促活動を行いました。PR用にポップや巨大ボールペンを制作、学内でのイベント時や授業後の時間を利用して学生らに購入を呼びかけ、facebookで活動報告の情報発信を行いました。この活動が功を奏し、173本を売り上げ、募金に大きく貢献しました。

「地域活動フォーラム」を実施しました

サービスマーケティングを通じて、どのような活動をしたのか、どう感じたのか、今後どのようにしたいか等を発表する「地域活動フォーラム」を実施しました。【発表内容】国際ボランティア活動/あしなが学生募金活動/きつかけバス/竹田農家民泊/とうきびフェスタ/竹田まちなか活動情報発信事業/清正公三十三夜祭/森林セラピー/マレーシアボランティア事業/おおいだ活性化ネットワーク/赤い羽根ボールペン応援プロジェクト/サイバー防犯ボランティア応援プロジェクト/保戸島映像音楽祭/映像による日韓次世代交流/府内学生ECOフェスタ



凍田教授退職記念シンポジウムと最終講義を行いました

人文系設立時より22年間、情報コミュニケーション学科を中心に教鞭をとられた凍田和美教授の退職記念シンポジウムと最終講義を行いました。最終講義には、実習助手OGや卒業生たちも多く集まり、凍田教授から頂いた言葉、思い出などを語りました。みなさん「凍田先生と出会わなければ今の私はいなかった」と口をそろえておっしゃっており、凍田教授の偉大さを感じました。



「きつかけバス47」街頭募金を行いました

47都道府県、2000人の学生を、東北に! 東北に元気を! たくさん笑顔で! という熱い思いで学生が立ち上げた国民運動「きつかけバス47」。東日本大震災をいつまでも風化させず、被災地の人々をもっと元気にして、ボランティアを希望する学生たちを東北へ連れて行く。さっかけとなることを目的としています。この活動に賛同した学生たちが立ちあがり、街頭で2日間の募金活動を行いました。



情コミュ嘱託研究員の協力で地域貢献活動を行いました



情コミュでは、2012年度から地域貢献研究会を立ち上げ、学外で活躍している若手の嘱託研究員の方々の協力を得て、地域活動を推進する取り組みを行っています。今年度はフェイスブックコミュニティ「in豊後竹田」哲学カフェin豊後竹田・マレーシア短期留学・下関市立大学を訪問・自分戦略デザイン大学・簿記自主勉強会・地場り大分竹田・立命館アジア太平洋大学訪問を実施しました。来年度からは、「仕事力養成特訓」「簿記」のサポート体制など、新規の講義も予定しています。

Cover of Epistula vol.32

本広報誌「エピストラ」は、各学科の「頑張っている学生」が表紙を飾りました。情報コミュニケーション学科からは、就活の傍ら、資格取得やサークル活動に全力投球する堤友香さん、倉重仁美さん、古田葉月さん、姫野真未さんに登場してもらいました。狩谷ゼミで「マトリックス」のような映像を撮影する。というユニークな授業時に邪魔した表紙撮影は、とても賑やかに行われました。



学内ギャラリー

2013年 11月 2014年 2月

本学 美術科の学生による作品を展示。学内ギャラリーは、午前9時から午後6時まで一般公開しています。学外からお越しの際は、大学事務局にお声掛けください。

1x4人展

2013年11月26日～12月3日

美術専攻2年
西崎明貴、橋本史帆
デザイン専攻2年
大谷尚子さん
徳原乃子さん

変化

2014年1月7日～1月15日

美術専攻2年
河原貴子

王子と運命の果実展

2013年12月4日～12月11日

デザイン専攻2年
徳久ひかる、西田あゆみ
平内聖奈、宮本珠美

浦丸真太郎展

2014年1月18日～23日

美術専攻2年
浦丸真太郎

イラストサークルコレクション

2013年12月12日～12月20日

イラストサークル

ファミ展

2014年1月27日～2月2日

デザイン専攻1年
松本江里加、仲戸萌

表紙の顔

本広報誌の表紙モデルは、各学科から頑張っている学生にスポットをあてて撮影をしています。今回は、美術科デザイン専攻ビジュアルデザインコース2年の宮本珠美さんと盛満まいさんに登場して頂き、大分県

●「別府アルグッチ音楽祭」出演／齊藤美友子、江崎昭弘、上村梨世、小松あずみ、坂本梨子、甲斐田桐子、坂本重、井上貴裕、池田香、佐藤蘭●「第7回九州新人演奏会」出演／吉元優喜乃●「読売新聞主催「第83回新人演奏会」出演／池邊秀紀、坂口美奈●「第67回全日本学生音楽コンクール」2位／齊藤美友子、須山恵理香、入選／藤延平●「第62回日本音楽コンクール」入選／吉元優喜乃●「第1回九州新聞社」

●「別府アルグッチ音楽祭」出演／齊藤美友子、江崎昭弘、上村梨世、小松あずみ、坂本梨子、甲斐田桐子、坂本重、井上貴裕、池田香、佐藤蘭●「第7回九州新人演奏会」出演／吉元優喜乃●「読売新聞主催「第83回新人演奏会」出演／池邊秀紀、坂口美奈●「第67回全日本学生音楽コンクール」2位／齊藤美友子、須山恵理香、入選／藤延平●「第62回日本音楽コンクール」入選／吉元優喜乃●「第1回九州新聞社」

日々是精進

日頃の頑張りが、賞の受賞や商品化など結果に繋がった学生や卒業生たち。今年度の活躍を部、ご紹介いたします。

学友会

こんにちは、学友会です。今年度は「発見」をテーマに「同様なイベントの企画や、運営を一心不乱に取り組んでまいりました。特に「一番のイベントである」芸短祭はあいにくの天気だったにも関わらず、たくさんの方にお越しいただいて、とても素晴らしいものになりました。ありがとうございました。そしてこの一年間、私たち学友会を支えて下さった全ての方々に厚く御礼申し上げます。これからも学友会をどうぞよろしくお願い致します。

サービslラーニング報告

竹田まちなか情報発信事業について

竹田市とは5年前から、サービslラーニングで深い交流を行ってきました。活動内容は、主に竹田のまちなかでいられるイベントの手伝いやボランティア活動をして、Facebookやホームページで情報発信することです。例えば竹楽、竹灯籠の灯りやまちなかは幻想的な世界に包まれます。竹楽は里山保全の一環としても行われており、綺麗さだけではなく環境のことも考えたイベントです。私たちは竹灯籠を並べる手伝いをし、地元の方々の思いや活動を発信しました。



これまでの活動で課題として挙げられるのは「幅広い世代の人と交流すること」です。これからはもっとまちなかの人達の声を聞き、年代の垣根を越えて活動を行っていくことが必要だと感じます。
(情報コミュニケーション学科 三浦楓・西村優里佳)

府内学生ECOフェスタ2013

私は、1年の時から府内学生エコフェスタに関わってきました。このイベントは、平成22年から大分市環境対策課などにより、6月にエコキャンペーンイベントとして府内五市街で開催されています。今年は、私たちが実行委員長として行いました。準備は3月から始まり、商店街の方々と話し合いを重ね、市役所へ企画書を提出したり、警察へ道路利用許可を得たり、近隣のお店に協力をお願いしました。1年の時は、自分たちで考えるというより先輩方の指示で活動していましたが、2年になり自分たちが主体となって動くことで、普段は経験することのない多くの事を学びました。街の活性化につながるよう、これからも、先輩から後輩へ、と続けていってほしいです。
(情報コミュニケーション学科 阿部美月)



清正公二十三夜祭

毎年7月23日に加藤清正を偲んで行われる鶴崎二十三夜祭。今年度も、芸文短大から集まった約40名のスタッフで活動を行いました。ステージ企画等、新しい取り組みがはじまったことにより、本番まで苦労することが多々ありましたが、自分たちの役割をしっかりと果たし、当日は大成功に終わりました。地域の方たちからもあたたかい言葉をかけてもらうことが多く、私たちの活動が評価してもらっていることを感じました。これからもこのような活動が続いてほしいし、来年はさらに良いものになっていることを期待したいです。
(情報コミュニケーション学科 工藤彩加)



Our volunteer activity



私たちは、アメリカと大分でボランティア活動に参加しました。アメリカでは、ホームレスの方たちに食事や寝る場所を提供するボランティアのお手伝いをしました。最初はとても不安でしたが、ボランティアの方たちが優しく安心しました。そしてホームレスの方たちも、想像していた印象とは全く違い、明るく元気な驚きました。大分では「大分国際車いすマラソン」に参加する外国人選手の通訳やお手伝いをする団体Can-doのお手伝いをしました。英語圏の選手だけではなく、色んな国の選手たちと関わる機会も多くありました。そこで、自分たちが全く話さなくても身振り手振りでコミュニケーションはとれることを実感しました。二つのボランティアを通して、活動に参加して何かに貢献するだけではなく、人との関わりで自分たちにとって大きなことを学びました。また、私たちは外国と関わるボランティアだけでなく、日本での活動についても目を向けて活動していきたいと思っています。(国際文化学科 河野小雪紀・出口英)

学長コラム



中山 欽吾
似顔絵：学長秘書 佐々木優季

会話の勧め

平成26年を迎えたと思うと、卒業や専攻科修了を迎える皆さんにとって、卒業修了まであとわずかです。また1年生は、進級への抱負に胸を膨らませていることでしょう。年が改まるという事は自分の歳もつることを意味しています。この機会に、自分自身を真摯に見つめ直し、新たな年への抱負を持つことがとても大切です。大学を取り巻く環境は、時代の動きに連動して年々少しずつ変わっていきます。消費税が上がる一方で、反対にアベノミクスで景気がよくなり、所得が上がるなか、色んな情報があふれています。一方で、大学入学生年齢の人口減少が、入学生数に影響を及ぼすかもしれません。ですが、日常社会で共存する人同士の関係、つまり人と人の交わりは変わらないうえ、変わらないうえ、エッセンスが変わることで、変わります。しかもあまり変わらないうえ、変わらないうえ、エッセンスが変わることで、変わります。しかもあまり変わらないうえ、変わらないうえ、エッセンスが変わることで、変わります。しかもあまり

GEITAN

ダイタンニュース

NEWS!

「第6回県政ふれあいトーク」を開催しました

11月12日、広瀬勝貞大分県知事が来学され、第6回県政ふれあいトークを開催しました。広瀬知事と本学教員が芸文短大のカリキュラムや取り組みについて意見交換を行ったほか、大講義室にて「芸術文化短期大学生に期待すること」をテーマにお話しをして頂きました。また、各学科から代表の学生が出席し、自分たちが学んでいることや努力していること、留学先でのエピソードなどを語りました。夢が実現した学生、夢に向かって頑張っている学生、参加した学生それぞれが異なる分野の中で、みなイキイキと充実したキャンパスライフを送っており、そんな学生たちに知事も興味深くいろいろと質問されていました。学生らは知事との1対1の対談に緊張した様子でしたが、貴重な経験となりました。



釘宮磐大分市長による講演を開催しました

12月3日、釘宮磐大分市長による講演「大分市長から次世代を担う若者へのメッセージ」を開催しました。中心市街地のまちづくりとして、シンボルロード「おおいたの道」や南口駅前広場整備、JR大分駅ビル・北口駅前広場など、今後の計画について話されたほか、アントレプレナー事業、職員の提案ではじめた事業として、自転車の似合うまちをおいた、森林セラピー事業、トイレアートのトイレナール事業についてふれられました。自転車の事業や森林セラピーは、本学サービスラーニングの授業でも参加をしています。意見交換会では、大分市の防災・減災事業について、別府市との連携、駅裏の南北軸の人の流れ、バリアフリー化などについての質問があり、活発な討論が行われました。



「名誉教授称号授与式」を執り行いました



12月19日、本学学長室にて「名誉教授称号授与式」を執り行いました。名誉教授の称号は、本学を退職し、教育上、研究上、大学運営上及び地域貢献上、特に功績のあつた方に与えられます。本学ではこれまで、31名の方々にこの称号を授与し、今回は、昨年度退職された美術科久保木真人教授、音楽科釈迦郡誠准教授、国際文化学科吉良國光教授、同学科梁矢正一教授へ授与しました。中山欽吾学長は「これからも、地域貢献などさまざまな形で本学と関わり、個性あふれるユニークな活動をしていただきたいと思います。また、現役の先生たちのOBとしてもアドバイスをお願いします。本日はおめでとうございます」と述べました。

恩師からのお別れの言葉

今年度で退職される先生方にお言葉をいただきました。



国際総合学科

専任講師：常 梅

一年間の芸文短大生活は、あっという間に過ぎてしまいました。短い間でしたが、まわりの先生と職員のみなさんに励まされ、学生さんたちに助けられ、とても充実で、有意義な一年間を過ごすことができました。至らない私が大過なく過ごすことができたのは、そんなみなさんの支えがあったからだと思います。大変お世話になりました。この一年間は、一生の思い出になります。ありがとうございました。これからますます、芸文短大の輝かしい未来を応援します。

※派遣期間満了により、中国の江漢大学へ帰学されました。



情報コミュニケーション学科

教授：凍田 和美

22年間、本学の情報化とネットワーク化の仕事(日々の授業も含んで)を中心にやってきました。現在では、研究化された技術はすぐに世の中に出てくるので、その技術を十分に理解する間もなく、多くの人がそれを使い始めています。17~8年前からこれまでずっと、便利さだけでなく、「安心安全」に重点を置いた「情報モラル」の研究活動を進めてきました。まだ、やり残した仕事もあるので、学内をうろろろすることがあります。みなさん見かけたらぜひ、声をかけてください。どうぞよろしく!



美術科

教授：澤田 佳孝

昭和48年4月、当時別府市にあった本学に24歳で赴任してから、瞬く間に41年の歳月が流れました。在任中には、さまざまな出来事がありました。それらの年月を振り返り、現在の私の心に浮かんでくるのは、平家物語の中の平知盛のことは「見るべき程の事をば見つ」という言葉です。また自分なりに一生懸命生きてきた自分自身を褒めてやりたいという思いです。今後は、私の理想であり、そのために準備してきた、静かな晴耕雨読の生活が実現できるように、日々努力を重ねていくつもりです。

“習い事”なにか始めませんか!

「芸短オープンカレッジ」を開講します!

本学では、社会全体の学習ニーズの高まりに応え、地域社会に幅広い生涯学習の機会を提供することを目的とした「芸短オープンカレッジ」を開講しています。今年度も、絵画や語学、パソコン、映像など芸術系と人文系が一つになった本学ならではの個性豊かな講座を多数、ご用意しています。詳しくは、本学HP、または「芸短オープンカレッジ担当」までお問い合わせください。



情報をいち早くGet!

大分県立芸術文化短期大学の公式facebookをはじめ、各学科やサークルがfacebookを立ち上げています。イベントや公開講座、キャンパス内の様子など情報満載です。



音楽科



国際総合学科



情報コミュニケーション学科